江刺の稲

「江刺の稲」とは、用排水路に手刺しされ、そのまま育った稲。全く管理されていないこの稲が、手をかけて育てた畦の内側の稲より立派な成長を見せている。「江刺の稲」の存在は、我々に何を教えるのか。土と自然の不思議から農業と経営の可能性を考えたい。

編集長 昆　吉則

縁故米無償譲渡の実態をどう見るか

まず米穀安定供給確保支援機構（米穀機構）が毎月公表しているデータ（下図）を見ていただきたい。平成27年11月、家族・知人などからコメを無償で入手した消費者の割合は25・4％。スーパーからの購入（46・1％）に次ぐ第2位。米穀専門店は2・7％に過ぎず、インターネットショップ（7％）や生産者から直接購入（6・1％）をはるかに凌駕している。さらに前月の10月期では27・2％、3割に近い人々がタダでコメを手にしている。

通年での入手経路を見ると、26年度の19・5％から23年度の23・5％と約2割。でも、小さな農家が親戚縁者にコメを送る場合、5kgや10kgという商品パックサイズというより、30kg・60kgといったコメ出荷レベルのサイズで送るのではないか。しかも、僕の身の回りで見聞きする例から想像すれば、玄米で送るケースも少なくないだろう（調査項目は精米）。この玄米を加算すれば、通年でも3割近い比率になるのではないか。

その送り主の大部分はいわば趣味的なコメ作りを続ける高齢小規模農家なのである。彼らにも10a当たり7500円の直接支払いがなされているわけだから、それを〝補助金付き大規模家庭菜園〟だと揶揄したとしてもあながち的外れではあるまい。そして、彼らはその残りを農協に出荷してコメの供給過剰をもたらしているわけだ。

もし僕が田舎で水田を持ち、町に子どもや孫がいたとしたら、きっと同じことをするだろう。経済的に引き合わないものだとしても、孫や子ども可愛さからだ。かつてのように貧しさからではなく、豊かな日本だからこそ趣味的コメ作りが続き、親戚知人にコメは送られる。家族への情、そしてコメ作りが面白いからだ。

親戚知人への無償コメ流通の比率は年々減少している。生産コストが高いからではなく、高齢化の進行で町にいる家族にコメを送ることが続けられなくなっているのだ。

そう考えれば、彼らの行動に対して経済合理に基づく政策的対応をしたところで効果は期待できない。ということは、減少はしていくがコメの供給過剰は少なくとも5年は続くだろう。そして、法外な財政負担を伴う飼料米政策は長くは続けられない。だとしたら、経営者は自らコメ生産の経営リスクを軽減する方法を考えるべきだ。だから、水田での子実トウモロコシ生産なのである。

図：精米購入・入手経路（購入人数割合％（複数回答））

	デパート	スーパーマーケット	ドラッグストア	ディスカウントストア	コンビニエンスストア	生協（店舗、共同購入含む）	農協（店舗、共同購入含む）	米穀専門店	産地直売所	生産者から直接購入	インターネットショップ	家族・知人などから無償で入手	その他
平成27年11月	2.0	46.1	3.2	1.6	0.1	9.2	0.9	2.7	1.5	6.1	7.0	25.4	3.4
平成27年10月	1.3	45.1	4.3	2.0	0.05	6.9	1.9	3.7	1.2	5.6	9.5	27.2	3.6
平成27年9月	1.0	51.2	3.6	2.5	0.1	8.1	0.5	3.7	1.3	4.9	9.6	21.2	1.8
平成27年8月	2.3	51.5	3.8	1.9	0.1	6.1	0.9	4.5	1.4	3.4	9.8	21.3	2.1
平成27年7月	2.9	50.1	4.3	1.6	0.05	7.8	0.5	4.5	1.8	5.1	9.7	15.5	2.1
平成27年6月	2.2	49.0	4.0	3.3	0.1	8.1	1.0	3.0	1.3	4.1	10.7	17.3	2.6
平成27年5月	2.2	49.9	3.4	2.7	0.1	6.8	0.5	3.6	1.3	5.6	8.4	19.6	2.7
平成27年4月	1.6	51.2	4.1	2.7	0.2	7.1	1.0	3.3	1.1	4.1	9.5	16.9	2.9
平成26年度	1.2	48.7	4.1	2.4	0.2	8.2	1.5	3.5	2.0	6.7	8.7	19.5	2.6
平成25年度	0.7	47.4	3.8	2.8	0.3	7.1	1.6	3.8	1.8	6.8	10.0	20.8	1.6
平成24年度	1.0	45.1	4.3	3.4	0.3	7.8	1.8	4.2	1.8	7.0	7.4	22.9	2.0
平成23年度	0.7	45.9	3.7	4.2	0.4	8.6	1.4	3.8	1.3	6.8	6.4	23.5	2.2

注：平成23～26年度は各年4月から翌年3月までの平均。